第 193 回 誘電・絶縁材料技術委員会 議事録（案）

A. 日時　2009 年 5 月 26 日(火)　13:00～17:00

13:00～14:15　情報通信研究機構 見学会

14:15～17:00　技術委員会

B. 場所　独立行政法人 情報通信研究機構 本部 6 号館 1 階会議室

C. 出席者　(順不同，敬称略，○：出席，×：欠席)

穂積委員長(愛工大)	○	磯嶋委員(住友電工)	×	岡下委員(昭和電線)	○
岡本委員(富士電機)	×	小林委員(日立製作所)	○	清水委員(東芝)	○
高橋委員(ビスキャス)	○	中坊委員(日新電機)	○	菱川委員(ﾊﾝﾂﾏﾝ･ｼﾞｬﾊﾟﾝ)	○
藤井委員(日本ｶﾞｲｼ)	○	本城委員(三菱電線)	×	武藤委員(三菱電機)	○
渡辺委員(日立電線)	○	岩本委員(東工大)	×	江原委員(東京都市大)	×
加藤委員(新潟大)	○	池田委員(新日本石油精製)	○	田中(康)幹事(東京都市大)	○
内田幹事(中部電力)	○	高橋幹事補(電中研)	○	今井幹事補(東芝)	○

オブザーバー：芦辺(住友電工)

D. 提出資料

番号なし　第 192 回 誘電・絶縁材料技術委員会 議事録（案）

DEI-193-1　電気学会 誘電・絶縁材料技術委員会 委員名簿

DEI-193-2　第 80 回 基礎・材料・共通部門研究調査運営委員会 報告

DEI-193-3　平成 21 年度 誘電絶縁材料研究会・技術委員会・その他行事予定(一次案)

DEI-193-4　調査専門委員会フォローシート(2009 年度計画)

DEI-193-5　第 6～8 回 有機薄膜及ぶ複合膜のナノ界面物性とデバイス・センサ応用調査専門委員会 議事録

DEI-193-6　第 4 回 絶縁診断に基づく電力機器のアセットマネジメント調査専門委員会 議事録

DEI-193-7　2009 年度家田賞投票結果，2009 年度矢作賞投票結果

DEI-193-8　第 40 回 電気電子絶縁材料システムシンポジウム開催提案書(第 2 次案)

DEI-193-9　第 40 回 電気電子絶縁材料システムシンポジウムにおける SS(産業界からの技術紹介)セッション開催のご案内

DEI-193-10　第 29 回 電子・絶縁材料に関する若手セミナー 開催提案書(第 1 次案)

E. 議事内容

E-1. 委員長挨拶

穂積委員長より、第 40 回電気電子絶縁材料システムシンポジウムについて、前回(約 90 名の参加者)、前々回(約 80 名の参加者)よりも参加者を増やし盛り上げていきたいとの挨拶

があった。また、6 年間開催されていなかった若手セミナーについても、開催準備が決まり、委員の皆様にご協力のお願いとのことであった。

内田幹事の後任として住友電工の芦辺氏に就任頂くこと、伊藤委員(日本ガイシ)の後任として、の藤井氏(日本ガイシ)に就任頂くことが報告され、両氏から挨拶があった。

E-2. 議事録の確認・承認

高橋幹事補より、第 192 回 誘電・絶縁材料技術委員会 議事録(案)の報告があり、承認された。

E-3. 名簿の確認

資料 DEI-193-1 について内容確認が行った。中坊委員の部署名、菱川委員の部署名・住所・FAX 番号、加藤委員の住所を更新する必要があることを確認。次のバージョンで修正することとした。

E-4. 基礎・材料・共通部門研究調査運営委員会 報告

資料 DEI-193-2 に基づき、穂積委員長の代理として出席した高橋幹事補より、第 80 回運営委員会での議事内容について報告があった。著作本人による電気学会著作物を技術報告に引用転載する場合、学会からの許諾が免除されること、他学会との研究会共催における著作権の取り扱いについての方針が報告された。

また、今年度から導入予定の研究会論文電子投稿システムについては、6 月 1 日に説明会があるため、今井幹事補が出席し、次回にその概要を報告することを確認した。

E-5. 平成 21 年度 誘電絶縁材料研究会・技術委員会・その他行事予定について

資料 DEI-193-3 に基づき、田中(康)幹事から行事予定の説明があり、下記の事項が確認された。

・10 月 9 日，10 日を予定している秋田での研究会(トリー，トラッキング，絶縁一般)、及び、11 月に予定しているナノコンポジット研究会は開催の方向で進める。
・10 月に予定されていたポリマーがいし研究会は、本間委員長より開催が難しい旨の連絡があった。

E-6. 調査専門委員会フォローシート(2009 年度計画)について

資料 DEI-193-4 に基づき、田中(康)幹事から、フォロー状況についての説明があり、下記のことが確認された。

・ナノコンポジット調査専門委員会の立ち上げは、現段階では未定であるが、穂積委員長が田中(祀)先生と相談する。
・各委員会の活動状況及び活動予定。

E-7. 有機薄膜及ぶ複合膜のナノ界面物性とデバイス・センサ応用調査専門委員会について

資料 DEI-193-5 に基づき、加藤委員より第 6～8 回の活動内容が紹介された。第 6 回はセイコーエプソン、第 7 回は ADEKA、第 8 回は北海道大(全国大会)で開催したことなどが報告された。

E-8. 絶縁診断に基づく電力機器のアセットマネジメント調査専門委員会について

資料 DEI-193-6 に基づき、池田委員より第 4 回の活動内容が紹介された。新委員が加入したこと、これまでの調査活動で、研究会の方向性に目処がついたため、技術報告作成に向けての活動を加速させることが報告された。

E-9. 2009 年度家田賞・矢作賞投票結果について

資料 DEI-193-7 に基づき、2009 年度家田賞及び矢作賞投票結果が報告された。2009 年度家田賞は長尾先生(豊橋技科大)、2009 年度矢作賞は津久井先生(リサーチラボ･ツクイ，元東海大)とすることが承認された。

E-10. 40 回 電気電子絶縁材料システムシンポジウムについて

資料 DEI-193-8 に基づき、高橋幹事補よりシンポジムの準備状況が報告された。下記に報告事項を示す。

・初日 26 日は 13:00 に開始とし、最終日 28 日は 10:30 に終了し、その後テクニカルツアーとする。
・テクニカルツアーの中部電力島根原子力発電所については、展示館の見学は問題なし。発電所内の展示館以外の場所も見学できないか調整中。
・シンポジム中に調査専門委員会を開催可能であることを、各委員会幹事に連絡した。開催の場合，会議室はシンポジウム運営側で用意する。
・シンポジウム予算については、招待講演者への謝礼など、まだ未確定な部分もある。
・シンポジウムでは、一号委員及び二号委員に座長をお願いしたい。
・5 月 26 日時点の申し込みは、4 件。
・予稿集用原稿は、従来通り一般講演 4～6 頁、ポスター2 頁とする。
・原稿の提出締切りは 7 月 15 日を予定。
・シンポジムの一般発表数は 70 件を目標とする。

E-11. SS(産業界からの技術紹介)セッションについて

資料 DEI-193-9 に基づき、今井幹事補より SS セッションの概要が報告された。下記に報告事項を示す。

・現在、前回シンポジウム参加者及び ISEIM2008 参加者、一号委員に参加依頼をしてい

る。

・現在、日立マグネットワイヤー 菊池様、ジェイパワーシステムズ 関口様から、参加について前向きに検討したいとの連絡を頂いている。

・高橋委員(ビスキャス)、岡下委員(昭和電線)、東村委員(日立製作所)、高橋幹事補(電中研)より、参加の申し出があった。

E-12. 第 29 回 電子・絶縁材料に関する若手セミナーについて

資料 DEI-193-10 に基づき、高橋幹事補より、5 月 21 日に、早大理工において、石倉様(三菱電機)、早瀬様(東京都市大)、布施様(早稲田大)、高橋幹事補で、若手セミナーについての第 1 回の幹事会を開催したことが報告された。下記に、幹事会での審議内容を示す。

・2 年に 1 回の開催を目指し、シンポジウムの後に開催するようにしたい。

・今回の参加費は宿泊費別で 7000 円を予定(増加の可能性あり)。

・ホテルの宿泊費は 5000～7000 円程度である。参加費のみ(宿泊費は個別)、或いは参加費＋宿泊費とするかは今後決定する。

・参加者を各グループに分け、共同実験を進める形式としたい(実験内容は未定であるが、誘電体アクチュエーターは有望)。

・セミナー中に 3 つの講演を行い、①基礎的な誘電体現象論などに関する講演、②電力ケーブルに関する講演、③異分野の講演としたい。

・①については高田先生にお願いする。②についてはビスキャス・高橋委員にビスキャス関係者にて人選をお願いする。③については、テーマを決め、当委員会がサポートして決める。

F. 次回委員会

電気電子絶縁材料システムシンポジウム直前の、8 月 26 日 11:00 からの開催で調整する。

以上